

るものにて候、藝術を尊重し自然を憧憬し得れば足り申候、敢て美術家藝術家といふ肩書を要し不申候、意を枉げ節を屈してもかゝる虚名のもとに、世に出てたくなきものと思ひ申候、少しく消極的に傾ける論議なるやも不存候もこれが自分の主義にて候。

兎に角、變化と向上とを有することに於て、面白き世の中にて候。

あるときは又アービングのスケッチブックにある、リツプヴァンヴィンクルの如き意氣地なき性格に、似たる考なりやとも思ひ申候、然しそれ程無意味に世を終りたくもなきものと思ひ候、世に處する道を第一番に頭に置き候必要可有候。

竹林に詩をやり、清澗に茗を啜り候のみにては、今人のすべきことにては無之候、無意味に繪を習ひ職業(金を得る爲)の爲めに繪を學び候、徒輩の多き、迂生の最も與せざるところに有之候、人は人としてすべからく高い頭を作られば相成まじく候、それは藝術家に限り不申、一般の人々に渡ることにて候、人格より出でたる、自然より出でたる、客觀主觀の藝術的作品をこそ待ち憧れ申はべれ。

以上は一論として「みづゑ」へでも書き申度と思ひ候へども、それ程のことにも無之かと差止め申候。

迂生急に上京致すやも難計、或は今しばらく引籠り居るやも難計、どの道畫を學び申候ことも、死ぬまでにて宣布存候、死までの仕事にて候。

例の拙著不怠やり居候も、至つて遅々たるものにて候、其内何か出來申哉とも思ひ居申候、御一臂をかり申候運に會し候へばうれしき限りと思ひ居申候。

度々御雲箋を拜し難有奉存候。

餘事のみ申上候、餘は後便に譲り申候 匆々頓首

絡繹の塵チリしはたれの木槿かな

丁未新秋

故里にて 呷 川 生

丸山先生几右

紹介

●寫真例題集五十六卷には優秀なる作品十點を集めたり、位置の選み方の進歩せるは感服の外なし(大阪心齋橋通桑田商會)
●中央公論十月號は平素の倍量にて秋季大附録として小説數篇を載せたり、猶說苑中の齋藤綠雨評論、並びに島崎藤村氏の「水彩畫家」主人公に就て丸山晚霞氏の談話は興味ある讀物なり(本郷西片町反省社)

日本水彩畫會研究所横濱支部へ入會希望の方は神奈川縣保土ヶ谷町程谷小學校内輕部氏迄申出られたし